

# 第55回 獣医学セミナー

## エピジェネティクスは メラノーマ治療の標的と なりうるか？

野口俊助 先生  
(臨床病理学)

2015年 10月21日 (水)  
17:00-18:00

**iCOVER 1階101 (形態構造学実習室)**

イヌのメラノーマは、ヒトと同様、進行がんでは予後不良である。イヌメラノーマは、外科手術と放射線療法によって局所コントロールは可能であるが、有効な全身療法は存在しない。

現在、医学領域では骨髄増殖性疾患に対して、DNAメチル化やヒストン修飾といったエピジェネティクスを標的とした治療が臨床応用されつつある。これらの治療は固形がんにも有効であると考えられるが、臨床応用には至っていない。その理由として、治療薬の抗がんメカニズムが不明であることが挙げられる。

今回の発表では、メラノーマにおけるDNAメチル化阻害剤の抗がんメカニズムについて明らかとなった知見を紹介し、エピジェネティクス標的治療の是非を考察する。

★飲み物・おやつを用意します。

教員・学生の積極的な参加をお願いします！★

連絡先：加納 聖 (5883)  
清水 隆 (5895)

共同獣医学部

